

- 問1 平安時代の末期、武士として初めて朝廷の最高職である太政大臣に任命され、一族で政治の実権を握った人物の名前として正しいものはどれか。
（2023年 静岡県公立入試 類似）
1. 北条時政 2. 源頼朝 3. 足利尊氏 4. 平清盛
-
- 問2 平安時代の藤原氏による政治に関連する人物のうち、藤原道長の息子であり、宇治に平等院鳳凰堂を建立したことで知られ、父とともに摂関政治の全盛期を築いた人物は誰ですか。
（2020年 和歌山県公立入試 類似）
1. 藤原不比等 2. 藤原良房 3. 藤原頼通 4. 藤原純友
-
- 問3 平安時代中期、藤原氏が天皇の母方の親戚（外戚）という立場を利用して権力を握りました。天皇が幼少のときに代わって政治を行う役職と、天皇が成人した後にその補佐を行う役職に就いて行われた政治体制を何といいますか。
（2018年 秋田県公立入試 類似）
1. 律令政治 2. 院政 3. 武家政治 4. 摂関政治
-
- 問4 平安時代中期、宮廷に仕えた女性である紫式部によって執筆された、貴族社会を舞台とする世界的に有名な長編小説は何か、名称を答えなさい。
（2024年 千葉県公立入試 類似）
1. 源氏物語 2. 枕草子 3. 古事記 4. 徒然草
-
- 問5 国風文化が栄えた平安時代の貴族の生活空間において、広い庭園を囲むように中心となる建物と周囲の建物が廊下で結ばれた建築様式を何というか。
（2022年 京都府公立入試 類似）
1. 寝殿造 2. 武家造 3. 書院造 4. 合掌造
-
- 問6 平安時代に「かな文字」が普及したことによって、日本の文化や社会にどのような変化が生じたと考えられますか。その説明として最も適当なものはどれですか。
（2023年 宮崎県公立入試 類似）
1. 身分に関わらずすべての庶民が文字を読み書きできるようになり、民衆主体の文化が全国に急速に広まった。
2. 武士が政治の実権を握るための公文書として利用され、軍記物語が多く作られるようになった。
3. 漢字だけでは表しにくかった日本語の微妙なニュアンスや感情を表現できるようになり、女性による物語や日記文学が発展した。
4. 中国からの最新の学問や制度をそのまま取り入れることが容易になり、国家管理による歴史書の編纂が中心となった。
-
- 問7 藤原道長が詠んだ「この世をば わが世とぞ思う 望月の 欠けたることも無しと思えば」という和歌について、道長がこの歌の中で自分の権力の状態を例えた言葉として、最も適切なものはどれですか。
（2023年 三重県公立入試 類似）
1. 穏やかな波 2. 沈まぬ太陽 3. 春の訪れ 4. 満月
-
- 問8 11世紀後半、白河天皇が位を譲って上皇（太上天皇）となった後も、宮中（院）において政治の実権を握った政治形態を何と呼びますか。最も適切な語句を選びなさい。
（2025年 埼玉県公立入試 類似）
1. 執権政治 2. 院政 3. 摂関政治 4. 建武の新政
-
- 問9 平安時代中期、中央の朝廷から諸国に派遣され、現地の政治や徴税の実務を担っていた役職を何と呼ぶか、次の中から選びなさい。
（2016年 広島県公立入試 類似）
1. 県令 2. 将軍から領地を与えられた大名 3. 戦国大名 4. 国司
-
- 問10 白村江の戦いから唐の滅亡までの時期にあたる8世紀末から10世紀初頭にかけて、日本の仏教は大きな転換期を迎えました。空海がこの時期に唐から持ち帰り、高野山を拠点に体系化した教えや、その修行の場所に関する説明として正しいものを次の中から選びなさい。
（2017年 神奈川県公立入試 類似）
1. 念仏を唱えれば救われると説き、庶民の間に浄土宗を広めた。
2. 密教の教えに基づき、高野山に金剛峯寺を建てて真言宗を確立した。
3. 法華経を重んじ、比叡山に延暦寺を建てて天台宗を確立した。
4. 座禅によって自ら悟りを開くことを説き、建仁寺を拠点とした。
-
- 問11 保元の乱から平治の乱へと続く一連の動乱が、日本の支配構造に与えた影響を説明した文として、適切なものはどれですか。
（2022年 島根県公立入試 類似）
1. 公家と武士の融和が進んだ結果、武家諸法度が制定されて武士の行動が厳格に制限されるようになった。
2. 天皇の権限が絶対的なものとなり、院政が廃止されて武士は再び地方の警護を専門とする役職に戻った。
3. 軍事力を持つ武士が政治の実権を握るようになり、貴族中心の政治から武士中心の政治へと移行するきっかけとなった。
4. 全国に守護と地頭が設置されることで、地方武士が守護大名として独立し、幕府を介さない政治が行われた。
-
- 問12 平安時代の社会や文化に関する記述として誤っているものを、次の選択肢から一つ選びなさい。
（2024年 青森県公立入試 類似）
1. 地方政治の乱れから、関東地方で平将門が反乱を起こした。
2. 漢字をくずしたかな文字が使われるようになり、女性による文学が栄えた。
3. 念仏を唱えて阿弥陀如来にすがり、極楽往生を願う浄土信仰が広がった。
4. 商品作物として木綿が広く栽培され、庶民の衣服として一般に普及した。
-
- 問13 平安時代中期に栄華を極めた藤原道長や、平安時代末期に政権を握った平清盛は、共通する手法で政治の実権を掌握しました。自分の娘を天皇の後（きさき）として送り込み、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで得られる、天皇の母方の親族としての立場を何といいますか。
（2021年 埼玉県公立入試 類似）
1. 院政 2. 外戚 3. 執権 4. 将軍
-
- 問14 平清盛が、瀬戸内海の航路を整備し、大輪田泊を改修してまで日宋貿易に力を入れた理由の一つに、当時の中国（宋）の進んだ文化を取り入れることができました。この貿易によって日本にもたらされた輸入品の組み合わせとして正しいものはどれですか。
（2026年 福島県公立入試 類似）
1. 綿織物・朝鮮人参・青磁 2. 硫黄・刀剣・漆器 3. 生糸・鉄砲・キリスト教 4. 宋銭・陶磁器・書籍

答え合わせ・解説

問1	答え 4 平清盛	保元の乱や平治の乱を経て武士の地位を向上させた平清盛は、1167年に武士として初めて太政大臣の位に就きました。彼は自分の娘を天皇のきさきにするなど、従来の貴族と同じような手法で権力を固め、平氏一族による全盛期を築きました。
問2	答え 3 藤原頼通	藤原道長のあとを継いで摂政・関白を長く務めたのは、息子の藤原頼通です。道長と頼通の親子の時代が、摂関政治の最も栄えた時期にあたります。頼通は極楽往生を願って宇治に平等院鳳凰堂を建てたことでも有名です。選挙肢にある藤原不比等は、大化の改新後の律令制定に尽力した人物、藤原良房は最初に入臣として摂政になった人物です。
問3	答え 4 摂関政治	藤原氏は自分の娘を天皇の后とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の祖父や叔父として強い影響力を持ちました。幼少の天皇を助ける「摂政」と、成人の天皇を助ける「関白」の職を独占したことから、この政治形態は摂関政治と呼ばれます。藤原道長・頼通の親子がその全盛期を築きました。
問4	答え 1 源氏物語	紫式部が執筆した『源氏物語』は、当時の華やかな貴族社会の生活や感情をいきいきと描いた長編小説である。同じ平安時代中期の作品でも、清少納言による『枕草子』は随筆に分類される。また、『徒然草』は鎌倉時代の随筆であり、『古事記』は奈良時代に編纂された歴史書であるため、時代やジャンルが異なる。
問5	答え 1 寝殿造	国風文化の代表的な建築様式である寝殿造は、貴族の邸宅に用いられました。池や木々を配置した庭園の景観を重視し、風通しの良い開放的な構造が特徴です。これは日本の自然環境や貴族の生活習慣に適応した建築の形といえます。
問6	答え 3 漢字だけでは表しにくかった日本語の微妙なニュアンスや感情を表現できるようになり、女性による物語や日記文学が発展した。	かな文字の発明と普及により、漢字だけでは書き表しにくかった日本語の話し言葉や感情を細やかに表現することが可能になりました。その結果、紫式部の『源氏物語』に代表される物語文学や、女性の手による日記文学が大きく発展しました。
問7	答え 4 満月	この歌にある「望月」とは満月のことを指しています。道長は、三人の娘がそれぞれ天皇の后（中宮）となった祝宴の席で、自分の繁栄が一点の欠けもない満月のように完璧であることを誇り、この歌を詠みました。当時の藤原氏が極めて強い権力を持っていたことを象徴するエピソードとして知られています。
問8	答え 2 院政	1086年に白河上皇が始めた政治の仕組みです。それまで藤原氏が摂政や関白として権力を振るっていた「摂関政治」を抑え、天皇の父や祖父である上皇が自らの子孫に皇位を継がせながら政治を主導しました。この仕組みは、のちに武士である平清盛が台頭する12世紀後半まで、政治の大きな流れとなりました。
問9	答え 4 国司	律令制のもとで中央政府（朝廷）から地方の「国」に派遣された官吏を国司と呼びます。平安時代中期には、戸籍による統治が困難になったことを背景に、朝廷は国司に現地の支配や徴税を大幅に委ねるようになりました。
問10	答え 2 密教の教えに基づき、高野山に金剛峯寺を建てて真言宗を確立した。	空海が唐で学んだのは「密教」と呼ばれる深遠な教えです。彼は帰国後、紀伊半島の険しい山岳地帯である高野山を選び、修行の場として金剛峯寺を建立しました。これは、当時の都の喧騒や政治から離れ、山林で厳しい修行を行うことで仏の悟りを得ようとする新しい仏教のあり方を象徴しています。
問11	答え 3 軍事力を持つ武士が政治の実権を握るようになり、貴族中心の政治から武士中心の政治へと移行するきっかけとなった。	保元の乱において源氏や平氏の武士が活躍したことで、それまで貴族の「奉公人」的な立場であった武士の地位が劇的に向上しました。この乱の結果、武士は単なる兵力ではなく政治を動かす主体となり、平清盛が太政大臣に就任するなど、武家が政治の表舞台に立つ「武家政権」の時代を切り拓くことになりました。
問12	答え 4 商品作物として木綿が広く栽培され、庶民の衣服として一般に普及した。	木綿が商品作物として広く栽培され、庶民の衣服として普及したのは江戸時代に入ってからである。平安時代の庶民の衣服には、主に麻などが使われていた。平将門の乱、浄土信仰の広まり、かな文字による文学の発達、いずれも平安時代の出来事であるため、これらは正しい記述である。
問13	答え 2 外戚	平安時代、藤原氏は娘を天皇の后として嫁がせ、生まれた皇子を天皇に即位させることで、その祖父として政治を主導する「摂関政治」を確立しました。この立場を「外戚（がいせき）」と呼びます。この手法は後の平氏政権でも引き継がれ、武家が伝統的な貴族社会の枠組みの中で権力を握るための重要な手段となりました。
問14	答え 4 宋銭・陶磁器・書籍	日宋貿易において、日本は宋から宋銭（銅銭）、陶磁器、絹織物、書籍などを輸入しました。特に宋銭は日本国内で広く流通し、経済に大きな影響を与えました。一方、日本からの輸出分は硫黄、金、木材、刀剣などが主でした。